

Site A 環境を体験する円環状の建築

1. 多様な環境に触れる道のような建築



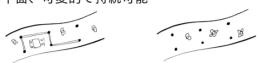
プログラム ・公園管理をする拠点

- ・自然体験ワークショップ
- ・環境レクチャー ・生活動線
- ・日常の居場所 ・本を読む
- ・自然を観察する ・演奏する
- ・高架上と高架下、2 つの 丘をつなぐ遊歩道

2. 周囲の環境が行動を決める

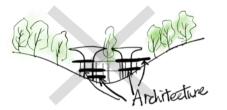
この建築は、川、湿地帯、広葉樹林、針葉樹林、幹線道路の高架下、道路の開口部の下と、多様な環 境に接しているところに位置している。それらの要素を縫うような円環の配置である。行われる行為 の変化は、これらの環境変化に依存する。建築は行為をそれほど束縛しないのが良い。 例)川の近くで本を読みたい。高架下の少し暗いところで読書したい。

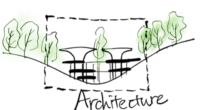
3. 自由な平面、可変的で持続可能



躯体の道に、間仕切りや建具で空間を緩やかに分ける。構造はシンプルなラーメンのフレーム構造な ので、用途変更に柔軟である。もし機能がなくなったとしても、道として活用される。

4. 地形・土木インフラも含めて建築である



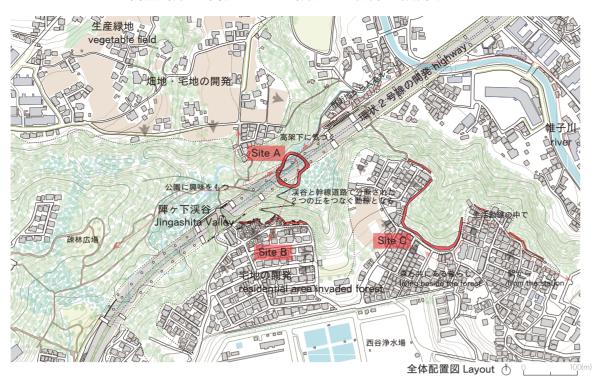


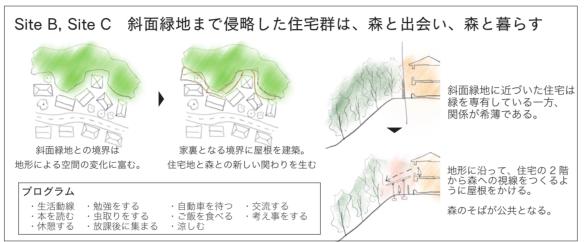
この建築は高架下の「大屋根」や橋脚の「神殿柱」を含めて建築である。 また、地形をつたっても移動する。

5. 垂直にも体験できる新しい自然公園に

6. 高架下の自然に気づく 高架上は直線的で便利だ。しかし、その下の自然に気づき、人々は下りて くる。児童生徒は放課後にこの建築に立ち寄ったりするのかもしれない。

自然環境と開発された環境との境界に設計する





Drawings

